

第28回 「なぜなぜ分析」ワンポイント応用編

ここでは、拙著の本に紹介していない応用編について、紹介したいと思います。（ただし、いつか活字になるかも(?)しれません。お約束できませんが……）

あわせて、「なぜなぜ分析」の基本については、ぜひ当社ホームページ、インフォメーションに記載の書籍等をご覧ください。

2007年 4月 4日

有限会社 マネジメント・ダイナミクス

小倉 仁志

jin-ogura@management-dynamics.co.jp

製造条件などのバラツキの原因追求は、要注意！

不良などのトラブルの原因追求を実施する際に気をつけなければならないのが、そのトラブルが増加・減少傾向にあるのか、時々発生するのか(バラツキ)によって、「なぜ」の展開が違ってくるとともに、原因も異なってくるということです。

つまり、

- ① 「～が高くなった」または「～が低くなった」
- ② 「～が高いときがある」または「～が低いときがある」

のどちらが現在発生しているのかをしっかりと見極めるとともに、それに続く「なぜ」においても、そのことを念頭に置いて展開しなければなりません。

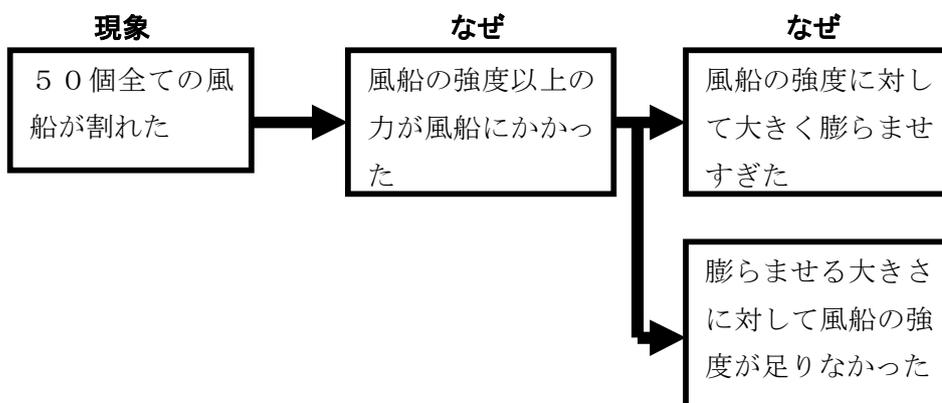
例えば、皆さんが、同じ大きさの風船を50個膨らませていたとします。

まずは、1問目。

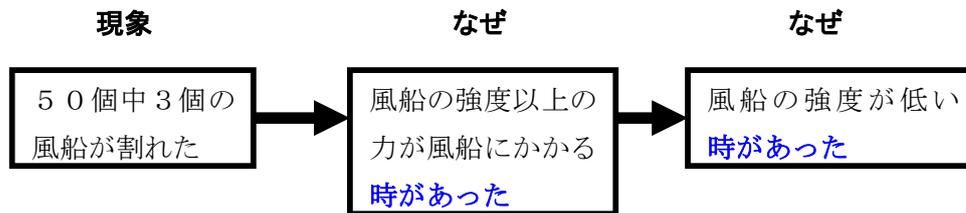
50個を全て同じ大きさに膨らませていたが、全て割れてしまいました。

この場合どのような「なぜ」の展開になるでしょうか。

以下に示します。



次は、風船を全く同じ大きさに膨らませていたにもかかわらず、50個中3個割れてしまいました。
こんな時はどのように展開したらよいのでしょうか。



最初の「なぜ」は、そのまま続けていくと、

最初に決めた設定値の問題……風船の膨らませる大きさの問題
設計時点の問題……すなわち風船自体の選定のしかた

に「なぜ」の矛先が向きます。

一方、次の「なぜ」はそのまま続けていくと、

製品の強度のバラツキの問題……風船の厚みや伸び量のバラツキの問題

に矛先が向きます。

このように、バラツキとそうでないのでは、全く違う方向に行ってしまいますので、**要注意**です。

また、2番目のようなバラツキの問題を取り上げる場合には、**文の最後に「～のときがある」と付け加える**だけで(極論すると、バラツキの場合は全ての文にこのフレーズを自動的につける)、的確な原因を導くことができます。

皆さんの職場には、バラツキがいっぱいあるのではないのでしょうか。

試しに「なぜ」を展開してみましょう。

きっと新たな発見があるはずです。

以上

もし具体的な事例の「なぜなぜ分析」の指導をご希望される方は、遠慮なくご相談下さい。

ご相談は無料ですが、指導は有料にて実施させていただきます。

また、分析を実施していきながら、会社の仕組みや組織を活性化させたいとお考えの方も、ぜひご相談ください。

皆様方のお声をお待ち申し上げます。